

国道252号 出逢橋 雪崩災害対応について



様式2

～100年に一度の雪崩で被災した合成鋼桁の復旧～

福島県南会津建設事務所道路課
主査 岸 竜雄

施工場所: 南会津郡只見町大字田子倉地内

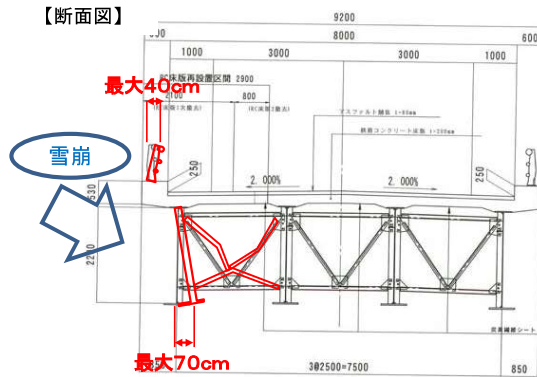
1. 被災状況

橋梁緒元

- 橋長 : L=40.0m
- 幅員 : W=8.0m(有効幅員) W=9.2m(全幅)
- 上部工 : 鋼単純合成鋼桁橋
- 下部工 : 逆T式橋台

被災部材

- 鋼桁 : 下フランジが**最大70cm変形**
- 支承 : ゴム支承の**亀裂**および**サイドブロック破損**
- 高欄 : **最大40cm変形**



2. 被災原因

<雪崩の発生について>

- ・本橋の架かる沢部前後に大量の倒木が確認された点。
 - ・気象状況から雪崩の発生の可能性が高かった点。
- 以上から本橋の架かる沢部で**雪崩が発生したと判断**。

<本橋の被災について>

- ・本橋の上部や側部に倒木が確認された点。
 - ・本橋の桁や防護柵が沢下流側(車道側)に変形しており、橋梁の外側から外力が加わったことが確認された点。
- 以上から本橋は沢部で発生した**雪崩により被災したと判断**。

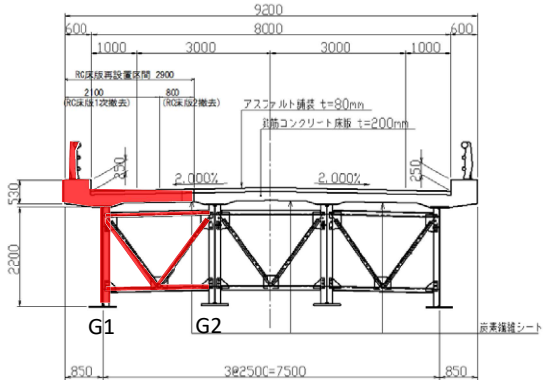
<雪崩の規模について>

今回の雪崩では直径50cm程度の大木も被災している点から**約百年に一度の大規模な雪崩であったと判断**。



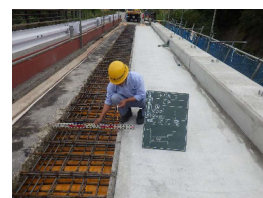
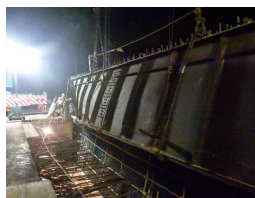
3. 災害復旧内容

- 主桁(G1(山側の桁))
- 対傾構、横桁(G1～G2間)
- 支承(A2(交換))
- 高欄(損傷していない部材は再利用)
- 床版(G1～G2間)
- 新旧床版間は超速硬コンクリートで復旧



4. 災害復旧工事

G1桁上のみ床版撤去 → G1桁(被災桁)撤去 → G1桁(新桁)架設 → 床版復旧 → 橋面工

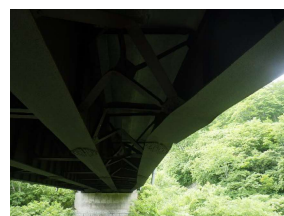


※ 通常は片側通行確保し、桁撤去時(2夜間)および架設時(2夜間)のみ全面通行止

5. おわりに

本橋は今後、雪崩に対する再度災害防止対策を実施し、雪崩による被災を防ぐ予定です。

また、本橋は合成鋼桁橋であることから、通常、長期の全面通行止めを伴う床版全面取壊が必要となりますが、今回は床版取壊を一部のみとすることにより、**片側交互通行を確保**しました。本事例が今後の橋梁補修等の一助となれば幸いです。



復旧前



復旧後